

2013年度 言語教育学(演習)
自然会話分析法 I : 木曜日 4限 (407)

担当教員：宇佐美まゆみ

E-mail : usamiken.tufs@gmail.com

研究室：740室

授業の目標

内外の文献を読みながら、これまでの会話分析・談話研究の動向と、いくつかの異なるアプローチの特徴、長所・短所を理解する。その上で、実際に、会話の文字化資料の作成、コーディング等を体験しながら、自然会話分析に必要なスキルを身につけるとともに、「総合的会話分析」の方法についての理解を深めること、及び、各自の研究計画書をまとめることを目標とする。

授業の概要

会話の文字化資料の作成、コーディングの方法、研究テーマの設定法、データ収集法（実験・調査計画法）、データ分析法等についての基本的事項を学びながら、適宜、実習を行う。

授業の計画

- ・文献講読は、主に、参加者の発表とそれに基づく討議を重視した形式で進めていく。
- ・実際の会話分析については、まず、練習課題としての会話データを用い、文字化資料の作成、コーディングの方法についての基本的事項を習得する。
- ・また、研究テーマの設定法、データ収集法（実験・調査計画法）、データ分析法等を学びながら、各自の興味と問題意識に基づいて簡単な予備研究を行う。
- ・上記作業と並行して、自然会話の収集、文字化、文字化資料のデータベース化、データ処理の実習を行う。
- ・各自の研究計画書を書く。

【分析テーマ例】

- ・言語使用（会話のやりとり、ポライトネス）の男女差、世代差、文化差、及び、普遍的特徴について等。
- ・中途終了型発話（最後まで言いきらない発話）、協調的発話（二人以上で、一つの文を完成させる発話等）の機能について等。

- 1 導入
- 2 自然会話分析と関連分野
- 3 会話分析への様々なアプローチ

- 4 基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese:BTSJ)について
- 5 BTSJ 入力方法デモンストレーションと実習
- 6 BTSJ 文字化課題について討論とフィードバック 1
- 7 BTSJ 改行についての「評定者間信頼性係数」について
- 8 BTSJ 文字化課題について討論とフィードバック 2
- 9 BTSJ 文字化の 2 次チェック、3 次チェック
- 10 BTSJ 文字化の 2 次チェック、3 次チェックについての討論とフィードバック
- 11 自然会話分析における「コーディング」
- 12 「BTSJ 文字化入力支援・自動集計システム、複数ファイル自動集計システムセット」について 1
- 13 「BTSJ 文字化入力支援・自動集計システム、複数ファイル自動集計システムセット」について 2
- 14 NCRB (Natural Conversation Resource Bank) の利用方法
- 15 これまでの課題や授業内容についてのまとめと討論、フィードバック

成績の評価

普段の授業への貢献度（積極的発言等）、発表、小課題、レポートなどによって、総合的に評価する。